

平成29年度 第25回 タイ王国ボランティア交流研修

(1) 参加者

◎印：リーダー、○印：サブリーダー、◇印：団 長

生徒：◎柏 崎 倫（情報技術科3年）菅 江 涼 介（機械科1年）
 ○中 村 玲 音（機械科3年）手 塚 大 輝（機械科1年）
 吉 田 千 裕（情報技術科3年）青 木 啓 恵（電気電子科1年）
 鈴木 秋 仁（機械科2年）池 澤 拓 生（電気電子科1年）
 鈴木 陽 也（電子科2年）
 引 率：◇湯 澤 修 一（校 長）飯 野 倫 行（情報技術科）
 阿 部 治 （地歴公民科）三 浦 良 暁（電子科）

(2) 活動期間と訪問地

①期 間：平成29年12月3日(日)～12月11日(月)

②訪問地：タイ王国

文化歴史：ペッチャブーン、バンコク

修理活動：ペッチャブーン病院

企業見学：(株)日立コンプレッサー社(ロジャーナ工業団地)



出発式(栃工高 校長室)

(3) 日程および活動内容について

平成29年12月3日(日)～12月11日(月) 7泊9日

(時刻はすべて現地時間にて記載 タイ王国との時差は2時間)

月 日	時 刻	活 動 内 容
12/3 (日)	4:30	栃工高 集合 (校長室にて出発式, 荷物の積み込み)
	5:00	栃工高 発 (羽生 SA にてトイレ休憩)
	9:45	成田空港 発 (タイ国際航空 TG641)
	15:45	スワンナプーム国際空港 着
	17:00	バンコク ジャスミン リゾート ホテル 着
12/4 (月)	7:30	バンコク ジャスミン リゾート ホテル 発
	9:00	日系企業訪問 T I C O N 社(講話)
	10:20	日系企業訪問 日立コンプレッサー社(講話・見学・懇親)
	12:45	アユタヤ周辺の歴史文化研修①(ワット・ヤイチャイモンコン)
	13:30	昼食 サイトーン・リバー・レストラン
	14:20	アユタヤ周辺の歴史文化研修②(ワット・マハタート, ワット・ブラシーサンペット,
	16:30	ワット・
	19:00	パナンチューン) アユタヤ発 バンコク ジャスミン リゾート ホテル 着
12/5 (火)	8:30	バンコク ジャスミン リゾート ホテル 発 (途中、2回トイレ休憩及
	16:00	び昼食)
	16:30	ペッチャブーン SR レジデンス ホテル 着 ペッチャブーン病院へ車いす運搬

12/6 (水)	9:00 10:00 ～ 16:30 18:30	車いす贈呈式 ペッチャブーン病院にて車いす修理① & 自己紹介 歓迎会
12/7 (木)	9:00 ～ 16:30 17:00	ペッチャブーン病院にて車いす修理② ペッチャブーン周辺の歴史文化研修（ペチャブラ仏教公園）
12/8 (金)	9:00 11:00 13:00 ～ 16:30 18:00	ペッチャブーン病院にて車いす修理③ 交流会（マジックショー）& 文房具贈呈 ペッチャブーン病院にて車いす修理④ 車いす修理工具等の整理（ホテルにて）
12/9 (土)	7:30 12:30 16:30 22:00	ペッチャブーン SR レジデンス ホテル 発 バンコク周辺の歴史文化研修①（チャトゥチャックマーケット） バンコク ジャスミン リゾート ホテル 着 サハタイ財団との次年度打合せ（ホテルにて）
12/10 (日)	9:30 14:00 16:30 20:00 23:55	バンコク周辺の歴史文化研修②（ワット・ポー、ワット・アルン） 買い物（セントラル・ワールド） 夕食（バイヨーク・スカイ・ホテル） スワンナプーム国際空港 着 スワンナプーム国際空港 発（タイ国際航空 TG642）
12/11 (月)	7:50 9:00 11:30 12:00	成田空港 着 成田空港 発（友部SAにてトイレ休憩） 栃工高 着（校長室にて解散式、連絡事項） 解散 午後認欠帰宅

（６）生徒の感想（報告書から一部を抜粋しました）

① タイ王国文化研修

「タイの風を感じて」

機械科３年 中村 玲音

今回の歴史研修では、アユタヤの遺跡を見学しました。四か所見に行きましたが、どこも似たようなつくりで、日本のものとはまた違った神聖さを感じることができました。アユタヤを歩いていると人を乗せているゾウが道路を歩いていました。前回は見ることができなかったのが間近でタイの文化に触れることができ、良かったです。また、今回の車いす修理活動場所となったペッチャブーンでも文化研修を行いました。同じつくりの大仏の中では世界最大の大仏を見て圧倒され、魅了されました。タイの仏教文化も少々体験できたので良かったです。



アユタヤにて

② 日系企業訪問

「私たちの時代に大切な言葉」

情報技術科3年 柏崎 倫

日系企業訪問をさせていただいた時、会社の方が「外国人とコミュニケーションを取るうえで大切なことは相手の文化を理解して同じ目線に立つことだ。」とおっしゃっていました。タイの会社では社員を雇うにあたって現地の人々の文化を最大限に尊重するそうです。日本人社員のみなさんも、極力タイの文化に接しようとする姿が同え、その姿勢に共感しました。そこで、私もタイの文化を理解するためにタイ料理を食べ続けようと思ったのです。東京オリンピックを控え、私たちの時代はより一層国際化が進んだ社会となっていくと思います。その中で私は先程の会社の方にいただいた言葉を胸に生きていこうと思います。



日立コンプレッサー社視察

③ 交流会

「～MY MAGIC SHOW～」

情報技術科3年 吉田 千裕

車いす修理活動最終日に私たちは、病院の方々から交流会の時間を設けていただき、子供達に文房具をプレゼントし、更にマジックを披露しました。前回の経験を活かし、行ったマジックは大盛り上がりしました。最終的に、車いす修理もコミュニケーションに関しても大成功で終わりました。今回のタイ王国ボランティア交流研修を通して、私はコミュニケーションの重要性を改めて感じる事ができました。しかし、異国の言葉を話すことはとても困難なことです。いかに言葉以外の別の方法で伝え、コミュニケーションをとっていくかを、今回の活動を通して学ぶことができました。



ペッチャブーン病院にて

④ 車椅子修理活動

「次につなげていくこと」

機械科2年 鈴木 秋仁

1 日目に修理する車いすと対面したとき、その車いすの多さと状態の悪さに目標台数はおろかまともに修理できるかも不安になりました。修理を始めると大量のさび取りに時間を費やしてしまい、思うように作業が進められない班がほとんどでした。その日の夜のミーティングで、より多くの車いすを直したほうがいいという意見が出て、さび取りの作業にとらわれずに多くの数の車いすを直す形で作業していくようにしました。次の日からは、さび取りに時間をかけずにタイヤの交換やブレーキの調整、シートの掃除などの作業も進められ、並べられていた修理前の車いすがみるみるうちに減っていきました。結果として、2日目にして目標台数で去年の修理台数を上回る20台を達成することができました。



昨年よりも集中して活動したいという私の気持ちは、直すことが困難な車いすを諦めずに修理することができ、満足することができました。この気持ちを忘れずに得られた実績や喜びを、次回さらに大きくできるようにタイでの体験・経験・技術を次につなげていきたいと思っています。



ペッチャブーン病院にて